

『膝・股関節外来』を開設します

～膝・股関節の痛みを、“歳のせい”とあきらめていませんか？～

人生100年時代、この高齢化社会にとって寿命だけではなく「健康寿命」をいかに保つかが課題です。膝・股関節の痛みは、歳のせいだから仕方がない、とあきらめてしまう方も多いようですが、日常生活の幅が狭まり、身の回りのことを自分で行ったり、散歩や外出などの趣味を楽しむことも困難となるばかりか、寝たきりに近い状態にもなり得ます。介護を必要とする原因の1/3を運動器疾患が占め、変形性膝関節症を有する人口は2500万人にも及ぶと言われています。これは40歳以上で見ると男性の42%、女性の62%にも及びます。

地域の皆様の、自分の脚で立って歩く、そんな“あたりまえ”を少しでも応援できればと、今回『膝・股関節外来』を開設しました。

新しい関節治療 PFC-FD療法（再生医療）

これまで変形性関節症の患者さんで、投薬やヒアルロン酸注射、リハビリなどで改善せず、疼痛が強い場合には手術を選択せざるを得ないのが現実でした。とはいえ、手術したくない、仕事などで入院ができない、健康上の問題などで手術が難しい場合もあります。そんな中、近年注目されているのが“再生医療”です。手術を考えるその前に、疼痛を緩和する新たな選択肢として大きな可能性を秘め、有効性を示すデータも増えています。ただ現時点では保険適応外の診療となっています。当院でも再生医療のひとつPFC-FD療法を取り入れ、一つでも多くの選択肢を提示できればと考えています(詳細はPFC-FDリーフレットをご覧ください)

最小侵襲手術について

最小侵襲手術とは、正常な組織（皮膚や筋肉、靭帯など）の損傷を最小限にした手術方法です。人工関節置換術は骨を切って、金属やセラミックでできたインプラントに取り換える「骨」の手術と思われがちですが、骨の周りの「軟部組織」の扱いがとても大事で、筋肉を切れば筋力は落ちますし、靭帯を切ればゆるんだ関節になってしまいます。これらの軟部組織をできるだけ温存することで、術後の痛みの軽減や、回復の早さ、脱臼などの合併症の少なさにつながると考えています。

当院でも最小侵襲手術を取り入れ、人工股関節では筋肉をほとんど切らない“前方アプローチ”を症例に応じて行っています。さらに特殊な牽引台を使用することで、より正確で安全な最小侵襲手術が可能となっています。また膝関節についても、年齢や変形の程度によっては、関節の内側だけ取り換える部分置換術や関節を残す骨切り術など、それぞれの患者さんに合わせたオーダーメイドな治療を提案できるよう心がけています。

ごあいさつ

膝・股関節外来を担当させていただく森島です。関節痛に対する再生医療は大きな可能性を持ち、関節痛に悩む患者さんの新しい選択肢となり得ます。保存療法を続けても良くならない、でも手術はしたくない、という方にむけて当院でも再生医療を導入しました。また、手術となった場合も、手術後に「痛くてリハビリも辛い」ではなく「リハビリするのが楽しみ」と思っただけできるよう、手術手技の工夫だけではなく、術後の疼痛管理にも力を入れています。関節の痛みでお悩みでしたら、ぜひお気軽にご相談ください。

森島 拓 医師 プロフィール

医局の関連病院にて研鑽を積み、幅広い分野を経験。当院のほか、他県の人工関節センターや整形外科病院での人工関節手術や外傷手術も担当しており、年間200件以上の手術を執刀。当院では膝・股関節疾患を中心に診療。

【経歴】

2008年 群馬大学医学部卒業

東京大学 整形外科医局に入局後

関東労災病院、東京大学医学部附属病院、三井記念病院、関東中央病院、さいたま赤十字病院、都立墨東病院、焼津市立総合病院、三宿病院での勤務を経て、現職

【資格】

日本整形外科学会専門医

AMIS(前方最小侵襲手術)ライセンス認定

AO Spine Principle Course修了

Interlocking Nailing Course for Surgeons in Berlin,Germany 修了



膝・股関節外来（人工関節/再生医療）

毎週金曜午後 15時～17時

（6月から開始予定）

詳細は、外来受付まで